



東京薬科大学新聞 八王子市山部町一丁目14番2号 TEL:042676-5111

# 七月六日学生大会

## 積極的参加を!

来る七月六日水曜日、前期学生大会が行われる。今回の学大では大きく分けて所信表明、バス問題、教務問題、予算、学費、カリキュラムにおける特別小委員会の設置、以上六項目について話し合われる。この中で特に目につくのは、バス問題と教務問題、それに特別小委員会設置についての三点である。

これらについては、子細に後述することにして、とりあえず、残りの三項目を簡単に補足しておく。所信表明では、先日行われた選挙の結果当選した新執行の具体的な考えや方針を正式に発表する。また、五月から行われていた予算委員会も決着が付き、五十七年度会計監査報告、そして、五十八年度予算案が明らかとなる。学費問題は、一応、今年度の学費は据え置かれたわけだが、昨年できた学費問題特別小委員会の今年の方針等が発表される。以上の三点は、紙面の上簡単に済ませてしまっただが、いずれにせよ、学生の注目に値する議案であること、付して前述したバス問題、カリキュラムにおける特別小委員会の三点についての説明

に入ることにする。まず、バス問題であるが、これは昨年の前・後期の学大において共通の問題であり、又、先月号においてもこの新聞の一面で取り上げた問題でもあるので、興味をいだいてる学生も多いと思う。さらに、毎回、同じ問題を取り上げて疑問を感じ始めた学生もいるかもしれない。だが、この問題の現状は、先月号で紹介した通りであり、とにかく急速に片づけることのできる問題ではない。バス通学は、交通不便な東葉にあつて、必要不可欠な、言い換えれば、学生生活に密着した問題なのである。したがって執行委員会でも、この問題には力を入れており、決してその役割を怠っているのではない。事実多摩センターバスの時刻改正アンケートを取っており、豊田バスについても、あの平山陸橋の完成予定日を、随時市役所に確認している(今のところ来年三月以降)。今回の学大では、これららの報告をすると共に、今後より一層の努力をしていくことを学生の前で約束することであろう。次に教務問題であるが、こ

知られてはいない。その利用者に至っては、山岳、スキー部等の部員・OBがほとんどで、昨年は十名に満たないという記録も残っている。小屋の使用許可の申請が、セミナーハウスの作成や設備の再点検等を会議を重ね、検討している。黒菱ヒュッテは、その成立からして山岳部等の尽力に負うところが大きく、一般学生の間ではその存在自体あまり

# 黒菱ヒュッテ

六月三、四、五日、東葉黒菱ヒュッテの整備・清掃が山岳・登山・スキー部等の有志十二名の手で行われた。これは新たに設けられた福利厚生施設運営協議会の正式な協力要請によって実行に移されたものである。

これは、一年生にはなじみの薄いな事と思うので、簡単に大まかな事柄を述べておく。御存知の通り、東葉では、女子が薬学科、衛生薬学科、男子が分科の二学科プラス製薬学科に分科する。昨年度まで分科は三年次で行っていたのだが、今年度から四年次分科となった。五十六年度以前の入学者の入試要項等には、「三年次分科」と記されており、二年次かかわらず、大学側が昨年秋突然、旧二年生(つまり五十六年度以前入学)から四年次で分科すると発表したのだから、こうした大学側の一方的な押しつけに、契約違反だとい

主張する学生が対立し、学内連絡会議(大学側と学生側との話し合いの場)や教務懇談会も回を重ね、結局、旧二年生を対象にした学生投票によって、四年次分科と一応の決着がついた。しかし、この四年次分科決定で、講義、実習内容も大きく影響を受け、新カリキュラムによる学生とのまともな関係というわけではない。今後、新カリキュラムにおける様々な問題が生じてくる可能性も大いに考えられる。学生が今一層の関心を教務問題に対して持つことが大切なのではないだろうか。新カリキュラムに対応する特別小委

近頃、講義中、学生が騒がしくて、とても講義にならない。と教授方はこぼしている。\*それは、人が一所に多人数集まれば、多少とも騒がくなるのは世の常。それが本人達の自由意思にとるとはいかないまでも、いささかではあれ除りがある場合にはなおさら無理もない。とは言いながら限度を越えて、自他共に認める紳士淑女、その寛大さは大海原のごとき東葉の教授方が腹に据えかねて、そのだそうなる。なるほど、それは問題である。\*講義室の床を汚す一学生の立場としても、いったいこれは講義なんだからかかと首を傾げたくなる様なことが確かにある。いかにけんがきじゃないのだから講義中ぐらゐは黙っていてもよさそうなものだが、\*しかしこんな事を言えた義理ではないかも知れぬが、教育が教師と学生の両者相互に関わる物とすれば、学生の非だけをおけつらうのは片手落ちではおられない。飽くまで仮定の問題だが、教師が教科書をスラスラと読み上げるお経のような講義をした場合、学生は傾聴するに値しないかと判断して、批判の意味で教師を無視して、掛かるのではないかと。\*大学が教育の場である以上、最低のエチケットとして、講義中は静粛にしたいものだ。いかにがなものである。

# 法学 セミナー

法学セミナーとは水曜日の12時45分からの30分余りを利用して法律を学ぼうというゼミグループのことである。上野桜木に女子部があった頃、法学に興味を持ち授業だけでは飽きたらなくなった学生達に頼まれて、当時から本学で法学を教えていらした松原先生がゼミを開かれたのといふのがそもそもの始まりと云ふ。少なくとも七年以上活動を続

気・水等の設備も完備しているだけに、利用者が少ないといふのは残念な限りである。東葉黒菱ヒュッテは、長野県の北部、後立山連峰の北部登山口である八方尾根の中腹一七〇〇M地点の黒菱平にある。八方尾根は、スキーでも名高く、ケーブルカー・アルペンリフトなどの施設も豊富。冬ともなればヒュッテから一歩出ればすぐそこがゲレンデとなる。ヒュッテのテラスのすぐ前には、高層湿原が広がり、ニッコウキスゲなどの高山植物が楽しめる。また、白馬連山、五竜岳、鹿島槍などを居ながらにして一望できる。



